

なぜ羽生九段は 2022 年度に復活したのか

中 3 - A - 29 廣田 琳久

目 次

はじめに

第 1 章 羽生善治とは

第 1 節 羽生九段の経歴

第 2 節 羽生九段の驚くべき主な成績

第 2 章 羽生九段の 2021 年度・2022 年度

第 1 節 2021 年度の将棋界・2022 年度の将棋界

第 2 節 2021 年度・2022 年度の先手番・後手番の成績

第 3 節 羽生九段の 2021 年度・2022 年度の戦型別成績

第 3 章 羽生九段が復活した理由

おわりに

将棋とは（付録）

参考文献

はじめに

私がこのテーマについての論文を書こうと思った理由は、二つある。一つ目は、羽生九段の「羽生マジック」とも称される「普通ならありえない手」を指して逆転勝ちを重ねる指し方に魅せられたことである。私は小学2年生の時に父から将棋の駒の動かし方を教えてもらい（父も祖父から将棋を教えてもらっていた）、その後将棋の本をたくさん買って独学で戦法を覚えた。中学受験に際しては、囲碁将棋部のある、できたら強い人のいる学校に進学したいと思い、現在は奈良学園の囲碁将棋部に所属している。かつて私が父に教えてもらった頃に羽生九段が永世七冠を獲得され、どのような考えで将棋を指されているのかと思い、羽生九段の将棋に興味を持つようになった。羽生九段は、1989年に初めてのタイトルである「竜王」を獲得してから、長年にわたって常に好成績を収めていた。それにも関わらず、2020年度から2割弱も勝率が低下して2021年度には年間成績は負け越しに終わった。しかし、2022年度には一転して3割弱も勝率を上げて復活したのである。理由の二つ目は、この1年ほどの間に何があったのかを知りたいと思ったことである。

ここでは、羽生九段の2021年度の成績と2022年度の成績を中心に、「先手と後手それぞれの場合」や「月別成績」、「戦型別成績」、「復活した理由」などに着目して分析していく。私はこの研究を始めるにあたり、相手が研究していないような戦型を指すことによって、2022年度に復活することができたのではないかと考えた。それを元に、羽生九段が2021年度に不振に陥った理由、2022年度に復活することができた理由を明らかにしていきたいと思う。

また、10ページから、「将棋のルール」・「対局はどのような形で進んでいくのか」など、将棋を知らない人でもこの論文を読み易くするトピックを示しているのも、どちらも参考にしていただければ幸いである。

第1章 羽生善治とは

第1節 羽生九段の経歴

羽生九段の経歴について箇条書きでまとめた。

- 1970年9月27日、埼玉県所沢市生まれ。
- 1982年に12歳でプロ棋士養成機関である奨励会に入会を果たす。
- 1985年に中学3年生である15歳でプロ入りを果たす。(注1)
- 1989年に19歳で初めてのタイトル「竜王」を獲得。(注2)
- 1996年に当時七つあったタイトル(竜王, 名人, 棋聖, 王位, 王座, 王将, 棋王)を全て獲得。全てのタイトルを同時に獲得するのは史上初。(注3)
- 2017年に7期目の「竜王」のタイトルを獲得。これで、当時あった全ての永世資格を満たし、将棋界初の永世七冠となる。(注4)
- 2018年に将棋界初の国民栄誉賞を受賞。ただ、この年の12月に竜王戦で敗退し、27年ぶりのタイトル無しとなる。(注5)
- 2022年には将棋界初の1500勝を達成し、特別将棋栄誉敢闘賞を受賞。
- 2023年には日本将棋連盟の会長に就任した。現在も会長である。

(注1) 現在までに、中学生でプロ入りした棋士は、加藤一二三九段、谷川浩司十七世名人、羽生善治九段、渡辺明九段、藤井聡太7冠の5人がいる。

(注2) 19歳でのタイトル獲得は年少記録の歴代3位である。

(注3) 現在は叡王を含む8冠となっている。2023年11月には藤井聡太8冠が誕生した。

(注4) 永世称号を獲得する条件はタイトルによって異なるが、「連続5期や通算7期」など、同一のタイトルを重ねて獲得した棋士は、「永世竜王」といった永世称号を名乗ることができる。なお、「叡王」のタイトルには、まだ永世称号を獲得する条件が定まっていない。

(注5) タイトル保持連続27年は圧倒的な1位で、2位は渡辺明九段の18年である。

第2節 羽生九段の驚くべき主な成績

- ・通算成績 1576勝 712敗 勝率0.688 (2025年1月)
- ・通算勝数 1576 歴代1位 (2025年1月現在)
- ・タイトル戦出場 138回 (竜王16回 名人17回 王位23回 王座26回 棋王17回
王将19回 棋聖20回) 歴代1位
- ・タイトル獲得 99期 (竜王7期 名人9期 王位18期 王座24期 棋王13期
王将12期 棋聖16期) 歴代1位
- ・一般棋戦優勝回数 46回 歴代1位 (注1)
- ・年間対局数89局と年間勝数68勝 共に歴代1位 (注2)
- ・同一タイトル戦連続登場回数 王座26回 歴代1位
- ・同一タイトル通算獲得 王座24期 歴代1位
- ・同一タイトル連続獲得 王座19期 歴代1位
- ・同一タイトル連続ストレート勝ち獲得 王座6期 歴代1位
- ・最優秀棋士賞受賞回数 22回 歴代1位

(注1) 一般棋戦とは、タイトル戦以外の公式記録に残る棋戦のことである。例えば、毎週日曜日に放送されるNHK杯テレビ将棋トーナメントが挙げられる。

(注2) これらの記録は2000年度に達成され、現在も破られていない記録である。

第2章 羽生九段の2021年度、2022年度

第1節 2021年度、2022年度の将棋界

2021年度と2022年度の将棋界を振り返ってどう羽生九段が復活していったかを見ていきたいと思ったので、まずはこの2年間、将棋界はどのような状況だったのかを調べた。

・2021年度の将棋界

藤井聡太四冠（当時）が2022年1月から2月に行われた第71期王将戦7番勝負で勝利して、史上最年少で五冠となった。この年の藤井五冠は棋聖、王位を防衛して、叡王、竜王、王将を獲得した。また、タイトル戦常連の渡辺明九段は、王将戦では藤井五冠に敗れたものの、名人と棋王の防衛に成功し、これによって棋王はこれで10連覇となった。若手の躍進も目立ち、特に伊藤匠四段（当時）は、新人王戦で優勝して全棋士の中で勝率1位となり、新人賞を受賞した。羽生九段は初の年度負け越しを喫し、不調に終わった。

・2022年度の将棋界

藤井聡太五冠（当時）が2023年2月から3月に行われた第48期棋王戦5番勝負で勝利して史上最年少で六冠となり、一般棋戦でも4つの棋戦で優勝した。また、前年度不調に陥った羽生善治九段は、見事に復活し、王将のタイトル戦にも出場した。若手の服部慎一郎五段（当時）は新人王戦で優勝して対局数や勝利数で軒並み上位に入り、新人賞を受賞した。

第2節 羽生九段の2021年度、2022年度の先手番・後手番の成績

「はじめに」にも述べたように、羽生九段は、2021年度は負け越しに終わったものの、2022年度には勝率を3割近くも上げて、復活を果たした。そこで、羽生九段の2021年度、2022年度の成績が先手番・後手番それぞれでどのような勝率の違いがあるのかを調べ、なぜ羽生九段は2022年度に復活することができたのかを探っていきたいと思う。

次に、羽生九段の2021年度の先手番・後手番それぞれの成績である。

2021年度	年間成績	勝ち数	負け数
先手	7勝14敗	○○○○○○○	●●●●●●●●●●●●●● ●●●●
後手	7勝10敗	○○○○○○○	●●●●●●●●●●

この表が示すように羽生九段は先手・後手共に勝率が5割を切った。勝率が5割を切るのは1985年のデビュー以来、初めてという苦しい1年間となった。

次に、羽生九段の2022年度の先手番・後手番それぞれの成績である。

2022年度	年間成績	勝ち数	負け数
先手	12勝8敗	○○○○○○○○○○○○ ○○	●●●●●●●●
後手	21勝10敗	○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○ ○	●●●●●●●●●●

2021年度は先手・後手ともに負け越ししていたが、2022年度は先手・後手ともに勝率6割越えと復活した。棋士全体の先手番の勝率が52%で後手番の勝率が48%と言われているが、羽生九段は後手番の勝率が68%と高い。勝率が6割を超えたのは、2015年以来7年ぶりのことであった。

第3節 羽生九段の2021年度、2022年度の戦型別成績

羽生九段が不調であった2021年と復活した2022年で戦型別の指した数や勝率の違いがあったのかを調べたら、復活した理由がわかるのではないかと思い、2021年度と2022年度の戦型別成績を、令和4年版の将棋年鑑を使って調べた。

まず、羽生九段の2021年度の戦型別成績を示す。

2021年度 成績	相掛 かり	角換 わり	矢倉	振飛車 対抗系	雁木	横歩 取り	三間 飛車	月別 通算
4月	0—2	1—0	0—1	—	—	—	—	1—3
5月	—	1—0	1—1	—	—	—	—	2—1
6月	—	—	1—0	—	—	—	—	1—0
7月	—	0—2	0—1	0—1	—	—	—	0—4
8月	—	0—1	—	—	—	—	—	0—1
9月	0—1	—	1—0	—	—	—	—	1—1
10月	1—0	2—0	0—1	—	—	0—1	—	3—2
11月	—	0—1	0—1	—	1—0	—	—	1—2
12月	0—1	—	3—0	0—1	—	1—0	—	4—2
1月	—	0—1	—	1—0	0—1	—	—	1—2
2月	0—1	—	—	0—1	—	—	—	0—2
3月	—	0—3	—	—	—	—	0—1	0—4
戦型別 通算	1—5	4—8	6—5	1—3	1—1	1—1	0—1	14—24

この表が示すように2021年度は年間通して不振であり、2021年7月、2022年2月、3月は白星がなかった。角換わりや矢倉を中心に対局していたが、どの戦型でもほぼ負け越していることがわかる。だから先手、後手どちらも4割以下の勝率になり、成績を伸ばすことができなかった。

次に、羽生九段の2022年度の戦型別戦績を示す。

2022年度 成績	相掛か り	角換わ り	矢倉	振飛車 対抗系	雁木	横歩取 り	三間飛 車	月別通 算
4月	—	1—0	—	—	—	1—0	0—1	2—1
5月	—	—	—	—	—	2—0	—	2—0
6月	—	—	—	—	—	2—0	—	2—0
7月	1—1	—	—	1—1	—	1—0	—	3—2
8月	0—1	—	—	—	—	1—0	—	1—1
9月	1—0	—	—	—	—	1—3	—	2—3
10月	0—1	2—0	—	—	—	2—0	—	4—1
11月	2—0	2—2	1—0	—	—	0—1	—	5—3
12月	0—1	2—1	2—0	—	—	—	—	4—2
1月	1—0	0—1	—	—	0—1	1—1	—	2—3
2月	1—0	2—0	—	—	—	0—1	—	3—1
3月	—	2—1	—	1—0	—	—	—	3—1
戦型別 通算	6—4	11—5	3—0	2—1	0—1	11—6	0—1	33—18

2022年度は年間通して好調であり、2022年4月から6月は本来不利であるはずの後手番で6勝1敗と素晴らしい成績を残した。この年は、矢倉の使用数が急激に減り、横歩取りの使用数が17局と一番使用数が多くなっていた。この横歩取りが11—6と勝率も高かった。ただ、9月に3敗を喫したのでこの頃から角換わりを指し始めた。この柔軟さが先手、後手に関わらず成績を残すことができ、復活の年となったと考えた。

次の章では、2018年度から2023年度までの200人ほどの棋士の戦型別対局数を調べて、羽生九段が復活出来た理由を探っていこうと思う。

第3章 羽生九段が復活した理由

この章では、羽生九段が永世七冠を達成した翌年の2018年度から1年分のデータがある2023年度までの200人ほどの棋士の戦型別対局数を調べて、どの戦型が一番指されていたかを見た上で復活した理由を探っていきたいと思う。

これが、2018年度から2023年度までの全棋士の戦型別対局数である。

	相掛かり	角換わり	矢倉	横歩取り	全対局数
2018年度	228局	351局	282局	122局	983局
2019年度	274局	303局	396局	72局	1045局
2020年度	215局	267局	412局	109局	1003局
2021年度	336局	224局	359局	70局	989局
2022年度	343局	286局	246局	98局	973局
2023年度	347局	229局	326局	98局	1000局

この表では羽生九段がよく指している戦型を取り上げている。それを見ると相掛かりが年々増加傾向となっており、矢倉や角換わりもよく指されている。ただ、羽生九段が復活した2022年度によく指していた横歩取りは他の3つの戦法と比べて、他の棋士の間ではあまり指されていないことがわかる。

私はこの表を見て、羽生九段が復活出来た理由は、研究が進んでいて若手棋士もたくさん指している角換わりや矢倉だけではなく、研究があまり進んでいなくてあまり指されていない横歩取りを研究して自分の武器にすることで2022年度に勝ちを積み重ねることができたのではないかと考えた。

おわりに

私は今回の卒業論文では、なぜ羽生九段が2022年度に復活することができるかについて調べた。そして復活した理由は一つの考えに過ぎないが、研究が進んでいて若手棋士たちもよく指している角換わりや矢倉を指すだけでなく、研究があまり進んでいなくてあまり指されていない横歩取りを研究して自分の武器にすることができたから、という結論に至った。私はこの論文のテーマを調べる前は、相手が研究していないような戦型を指すことによって2022年度に復活することができたのではないかと考えていたので、ほぼ予想通りとなった。しかし、2021年度に1局しか指していなかった横歩取りを2022年度に全対局の3分の1も指すようになったことに驚かされた。だから相手が羽生九段の横歩取りの研究に対応できずに2021年度は勝率が3割台と不調だったが、2022年度に3割弱勝率を上げて見事復活することができた。

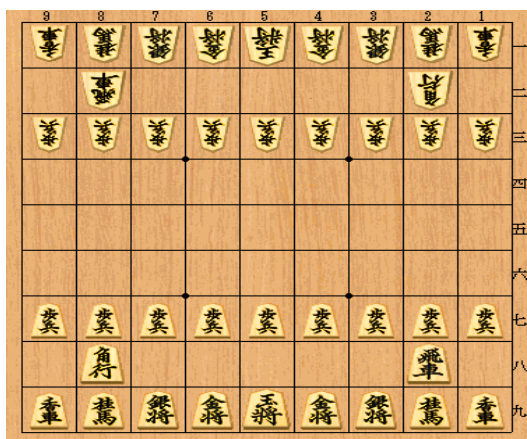
この論文を書くにあたって、2021年度と2022年度の羽生九段の対局を全て初手から令和4年版の将棋年鑑で全部調べていった。また、羽生九段の2021年度から2022年度のAIの使い方の変化についても調べようと思っていたが、関西将棋会館や書店で文献を探しても求めている内容と違う本が大半であったため、この論文には書かないことにした。この2つの部分に私はとても苦労した。ただ、1年間1つのテーマに対して苦労しながら調べたり、考え続けたりして、それらを文章に書き起こすことは、私にとって貴重な経験となった。

この論文を通して私は羽生九段のことにますます興味を持つことができた。以前は成績を見てすごいなと思っていただけだったが、今回羽生九段のことについて、先手番・後手番それぞれの成績や戦型別成績を調べていくと、1つの戦型が対策されて成績が悪くなっていったら柔軟に他の戦型を中心に対局をしていく、という普通だったらできないようなことができる羽生九段の行動力の凄さを知ることができた。これからは羽生九段の棋譜を毎局チェックしていき、更に将棋の実力を高めることができるように頑張っていこうと思った。

最後に私が今回卒業論文を書くことができたのは、毎日お忙しいところ的確なアドバイスをくださり、また細かいところまで親身に指導してくださった米山先生や、テーマ決めから文章を書くところまでアドバイスをしてくれた家族のおかげです。本当にありがとうございました。

将棋とは (付録)

将棋は2人で行うボードゲームの一種であり、互いに「盤」の上で交互に「駒」を動かしてするゲームのことをいう。相手の王を先に詰ませると「勝ち」になる。また、一番最初に指すほうを「先手」、次に指すほうを「後手」という。

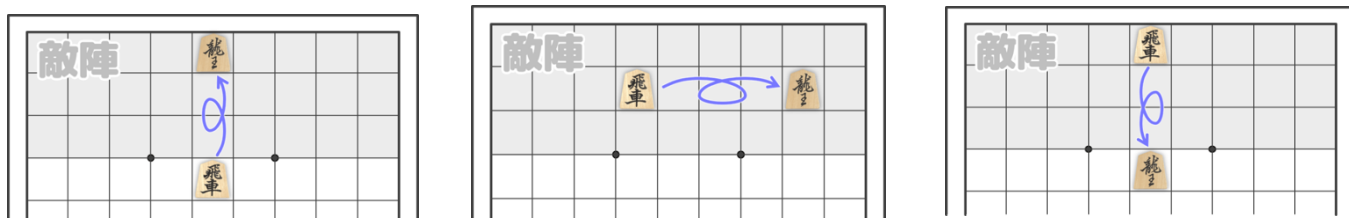


これは将棋盤といい、9×9の81マスからなる。タテの並びを「列」、横の並びを「段」という。将棋では8種類のそれぞれ異なる動き方をする駒を各20枚用いる。先手と後手がそれぞれ使うので計40枚の駒を使うことになる。

成るとは

「成る」とは盤上で駒を移動する際に、裏返して異なる駒の動きにすることである。「成る」ことができるのは、「駒の種類が飛車・角・銀・桂・香・歩のいずれかであり、まだ成っていないこと」かつ「盤上にあった駒を動かし、その移動元か移動先が相手から見て3段目以内であること」である。

また、1度成ってしまうと盤上で元に戻ることはできない。



この3つの場合が成ることができる。

駒の動かし方

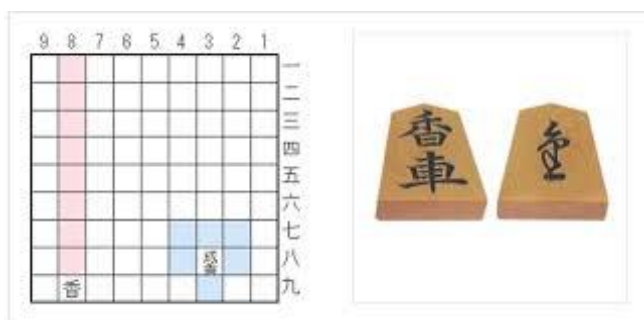
将棋の駒は8種類あり、それぞれ異なる動き方をする。次のページからそれぞれ駒の名前と動き方を示す。

歩兵 (ふひょう)



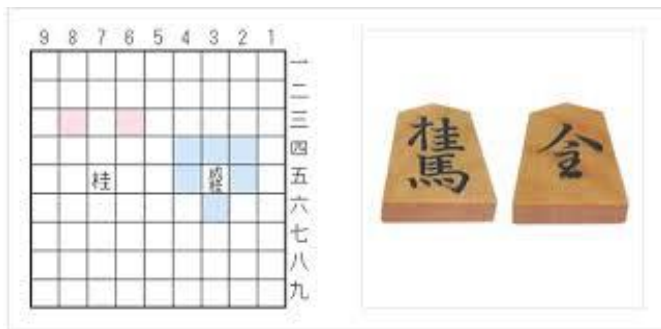
略して「歩」といい、歩は前方に一マスのみ進むことができる。成ると「と金」となり、金と同じ動きをする。

香車 (きょうしゃ)



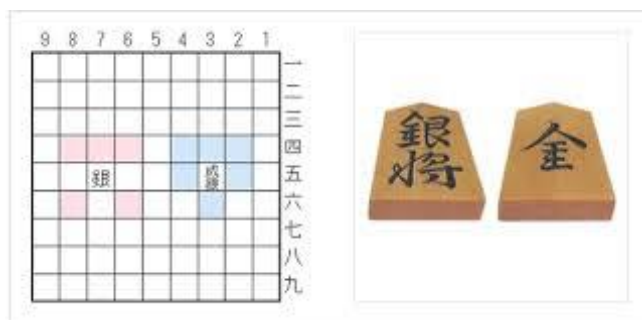
略して「香」といい、前方に何マスでも進むことができるが、他の駒を飛び越すことはできない。成ると「成香」となり、金と同じ動きをする。

桂馬 (けいま)



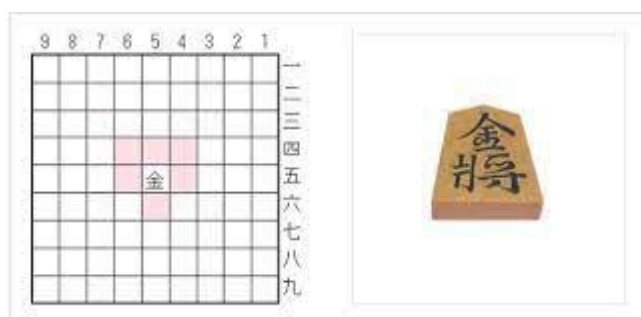
略して「桂」といい、二つ前の斜めに進み、途中に他の駒があっても進むことができる。成ると「成桂」となり、金と同じ動きをする。

銀将 (ぎんしょう)



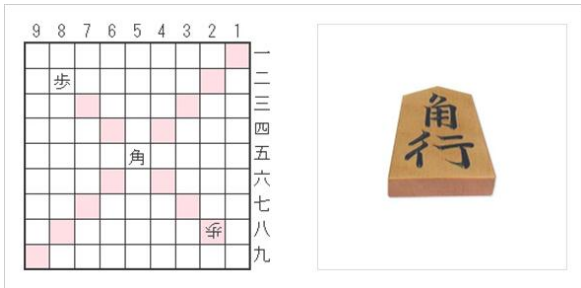
略して「銀」といい、縦と斜め前後に一つずつ動くことができる。成ると「成銀」となり、金と同じ動きをする。

金将 (きんしょう)



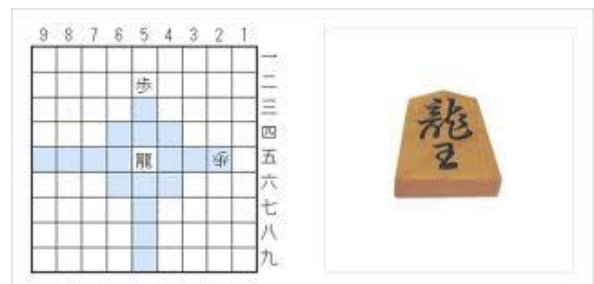
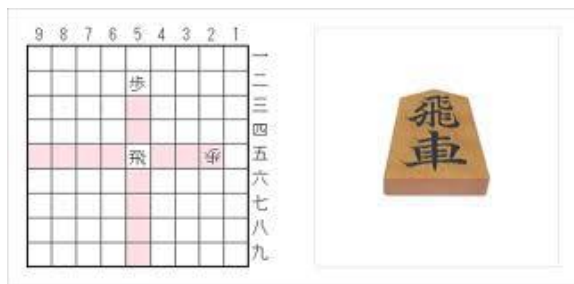
略して「金」といい、成ることはできない。金は縦横と斜め前方に一つずつ動くことができる。

角行 (かくぎょう)



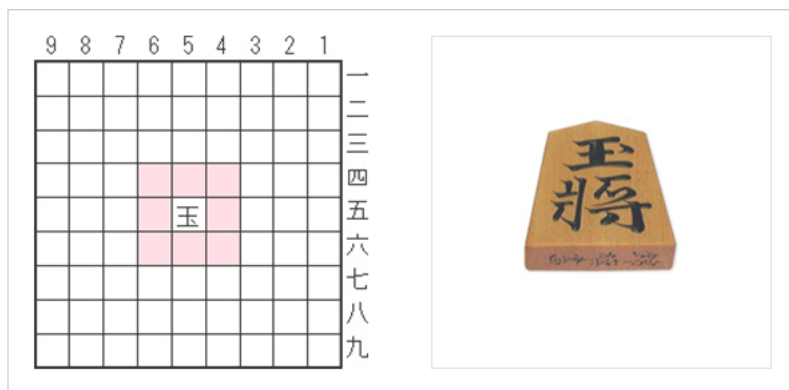
略して「角」といい、角は斜めにいくらでも進むことができるが、他の駒を飛び越すことができない。成ると「竜馬」(りゅうま・りゅうめ)となり、角の動きに加え、縦横に一つずつ動けるようになる。

飛車 (ひしゃ)



略して「飛」といい、飛車は縦横にいくらでも進むことができるが、他の駒を飛び越すことはできない。成ると「竜王」となり、飛車の動きに加え、斜めに一つずつ動くことができる。

玉将（ぎょくしょう）（王将）



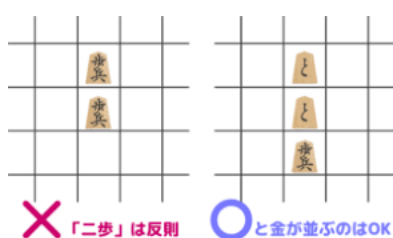
略して「玉」（ぎょく）といい、王将も同じ駒である。玉は金と同じで成ることができる。玉は将棋において最も大切な駒であり、自分の周りに一つずつ動くことができる。

将棋のルール

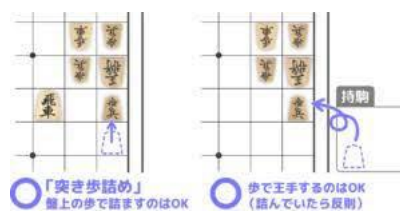
将棋には禁止されている「反則」がいくつかある。

- 自分の「歩」がいる縦の同じ列に歩を指す「二歩」（図1）
- 持ち駒の歩を打って相手の「玉」を詰みにする「打ち歩詰め」（図2）
- 前にしか進めない駒をこれ以上進めない場所に置く「行き所のない駒」（図3）
- 相手の手番なのに自分の駒を動かしたり、後手になったのに先に指す「二手指し」

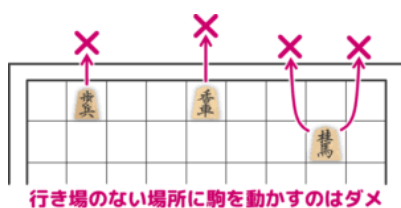
これらは全て反則の一種である。反則をしないように将棋を指すことが大事だ。



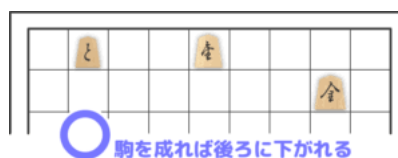
(図1)



(図2)



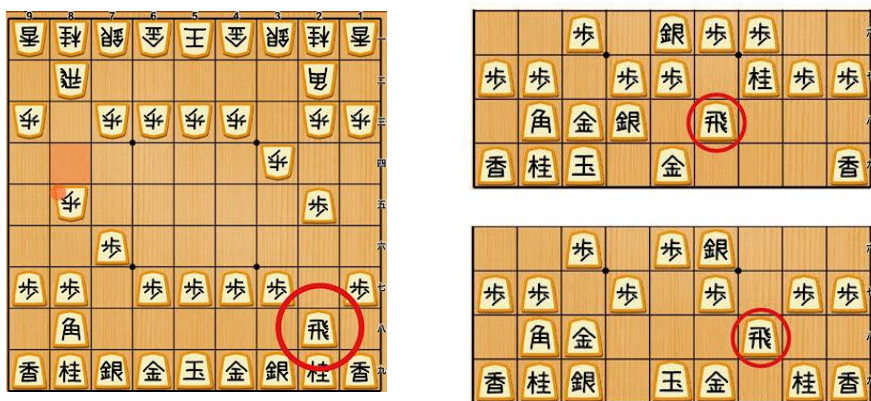
(図3)



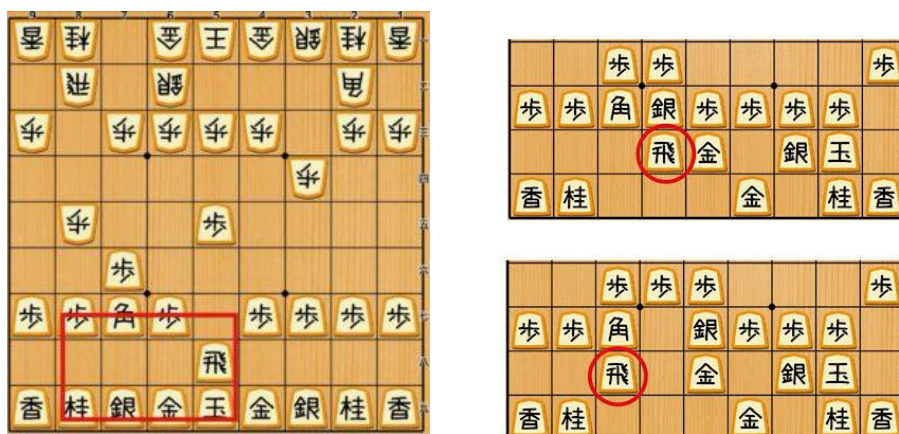
(図3)

将棋の戦法

将棋では飛車の位置によって戦い方が異なる。飛車が盤の右側4列にいることを「居飛車」といい、飛車が左側5列にいることを「振り飛車」という。将棋はたくさんの戦法があるが、ここでは代表的な戦法を紹介していく。



どちらも居飛車の陣形



どちらも振り飛車の陣形

向かい飛車



向かい飛車は将棋の振り飛車戦法の一つであり、先手ならば飛車を8筋に振り、後手ならば飛車を2筋に振る。この戦法は飛車先を逆襲しようとするのが目的である。

三間飛車



三間飛車は振り飛車戦法の一つであり、先手ならば飛車を7筋に振り、後手ならば飛車を3筋に振る。この戦法は攻撃的であり、攻めが好きな人向けの戦法である。

四間飛車



四間飛車は振り飛車戦法の一つであり、先手ならば飛車を6筋に振り、後手ならば飛車を4筋に振る。この戦法は振り飛車の中で最もスタンダードな戦法である。

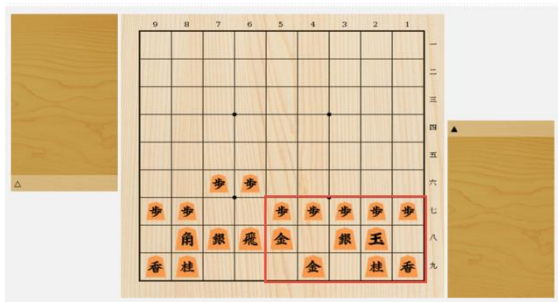
横歩取り



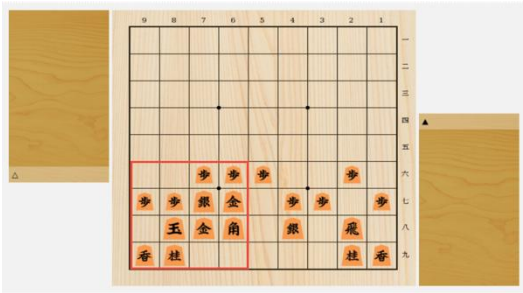
横歩取りは角道をあけた歩を、飛車先の歩を交換した飛車が横に動いて歩を取る戦法である。この戦法は飛車と角が飛び回る激しい戦いになる。

将棋の囲いとは

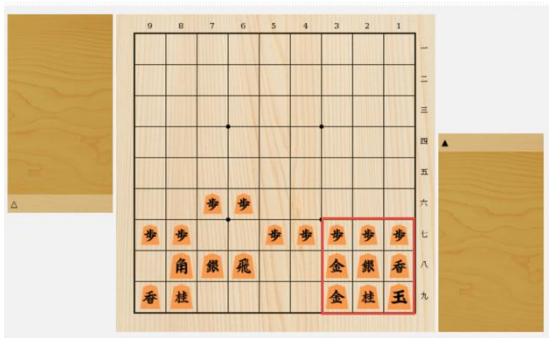
将棋では玉を守るための陣形を「囲い」という。王将の守備を行わないままに敵陣に攻撃をしてしまうと、反撃を受けやすくなり負ける確率が高くなってしまう。将棋にはたくさん「囲い」が存在するが、ここでは代表的な3つの囲いを紹介する。



これは「美濃囲い」と呼ばれる玉の守り方である。美濃囲いは主に振り飛車で用いられる。横からの攻めに強く居飛車に対して強い囲いだが、端からの攻めや上部からの攻めに弱いということが特徴である。



これは「矢倉囲い」と呼ばれる玉の守り方である。矢倉囲いは、主に相居飛車や相振り飛車で用いられる。上部からの攻めには強い囲いだが、横からの攻めには弱いということが特徴である。



これは「穴熊囲い」と呼ばれる玉の守り方である。穴熊囲いは居飛車・振り飛車問わず様々な戦法で用いられる。非常に堅く戦場から遠い囲いだが、囲いが完成するまでに時間がかかるということが特徴である。

参考文献

- ・『令和4年版 将棋年鑑 2022』日本将棋連盟 株式会社マイナビ出版 2022年
- ・『羽生善治のこども将棋 序盤の指し方入門』羽生善治・池田士文 池田書店 2017年
- ・日本将棋連盟「羽生善治 Yoshiharu Habu -棋士データベース」
<https://www.shogi.or.jp/player/pro/175.html>
- ・日本将棋連盟「通算成績-棋士」
<https://www.shogi.or.jp/game/record/all.html>
- ・玲瓏:羽生善治 (棋士) データベース-rayraw.com
<https://www.rayraw.com/index.php?type=total>
- ・日本将棋連盟「プロ棋戦の規定等について| よくある質問」
<https://www.shogi.or.jp/faq/provisions/>
- ・NHK「NHK杯テレビ将棋トーナメント」
<https://www.nhk.jp/p/goshogi/ts/P84WQ1GW9V/>
- ・日本将棋連盟「歴代ベスト記録・ランキング」
<https://www.shogi.or.jp/game/record/successive.html>
- ・日本将棋連盟「将棋とは? | 将棋の基礎知識」
<https://www.shogi.or.jp/knowledge/about/>
- ・日本将棋連盟「5. 反則について | 本将棋」
<https://www.shogi.or.jp/knowledge/shogi/05.html>
- ・将棋棋士成績DB「年度別公式戦記録 (戦型別)」
<http://kenyu1234.php.xdomain.jp/graphs.php>
- ・居飛車・振り飛車-将棋研究
<https://www.shougi.jp/joutatu/1-3.html>
- ・将棋講座ドットコム「成る-将棋用語説明」
<https://将棋講座.com/将棋用語/成る.html>
- ・ゼロから始める将棋研究所「戦法、定跡」
<https://shogi-joutatsu.com/archives/category/sempou>
- ・ゼロから始める将棋研究所「駒の成り方」
<https://shogi-joutatsu.com/archives/722>
- ・ゼロから始める将棋研究所「囲い、駒組み」
<https://shogi-joutatsu.com/archives/category/joutatsu/castle>
- ・日本将棋連盟「囲いにはどんな種類がある? 代表的な3つの囲いをご紹介」
https://www.shogi.or.jp/column/2017/10/post_260.html

- ゆーきゃんの将棋ブログ「居飛車か振り飛車か迷っているあなたへ、シンプルな選び方
教えます！」

<https://you-kyan.work/static-ranging-rook>

